

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

—中学校・国語科— vol.2

平成 17 年 9 月 栃木県総合教育センター

平成 16 年度教育課程実施状況調査(中学校第 2 学年段階の内容)のペーパーテスト結果のうち、今回は「記述式」の問題に着目し、「読むこと」の力を高めるためのプランを示します。

ペーパーテスト調査結果からみえた成果()と課題(▼)

「25 字以内」で記述する問題の通過率(63.8%)は、全国の通過率(59.0%)を 4.8%上回っています。

- ▼ 一方、「50 字以内」で記述する問題の通過率(46.0%)は、全国の通過率(49.8%)を 3.8%下回っています。また、「80 字以上 100 字以内」で記述する問題には、無答率(33.0%)が 3 割を超えているものもあります。

「自分の考えを自由に述べる形式」での問題の通過率(90.3%)は、全国の通過率(91.2%)とほぼ同程度で、9 割を超えています。

- ▼ 一方、「文章の言葉を引用しながら自分の考えを述べる形式」(80 字以上、100 字以内)の問題のうち、使用する言葉が指定されている問題の通過率(43.4%)は、全国の通過率(43.7%)とほぼ同程度で、5 割に達していません。

「文章表現を引用して述べる」習慣化を図りましょう

文章問題の「記述式」のうち、比較的結果がよかった問題を挙げてみます。

平均通過率が 8 割を超えた記述式の問題例

(問題の原文は縦書き。以下同じ。)

本県	通過率 (無解答率)	87.4% (6.9%)	全国	通過率 (無解答率)	85.4% (6.9%)	差	2.0% (0.0%)
----	---------------	-----------------	----	---------------	-----------------	---	----------------

* 領域・事項:「読むこと」

* 学習指導要領の内容: C(1)ウ

* 出題のねらい: 文章の展開を確かめながら読む。

- (1)「よおし、ここを攻めよう」とありますが、このあと「わたし」と「浦さん」はどんなやり方でアサリとりをしましたか。文章中の言葉を用いて、「というやり方」に続くように答えなさい。

というやり方

(正答) 次の 、 の条件を両方満たしているものを正答とし、どちら一つを満たしているものを準正答とする。

(条件) アサリとりの道具とその使い方が書いてある。

(例) ・鉄熊手で干潟を掘り返す。

・鉄熊手を干潟にぐさりと深く突き刺す。など

砂地からアサリを拾い出すことが書いてある。

(例) ・貝を両手で拾い出す。

・(浦さんが掘ったところを)わたしがさぐっていく。など

この問題のように、字数指定がなく、文章中の言葉をほぼそのまま抜き出して述べる形式の問題や、自分の考えを自由に述べる形式の問題(*)の平均通過率は、8割～9割を超えているか、または全国の平均通過率を上回る傾向がみられます。このことから、本県の生徒は、「記述式」のすべてが苦手ということではないことが分かります。そこで、記述式に慣れていない場合は、条件設定をゆるやかにした学習課題や問題に取り組ませ、記述に慣れる指導を重ねながら、「字数指定」などの条件設定を段階的に高めていくことが望まれるのではないのでしょうか。

*本年5月に発行した授業改善プランの5ページ下段の問題を指す。「あなたは、知りたいことについての情報を、どのような方法で入手しますか。二種類以上の方法を書きなさい。」という問題で、「字数指定」や「語句指定」はなく、自身の考えを箇条書きで書くもの。

1 自分の考えを書く機会を増やしましょう

「文章表現を引用して書く」場面を増やしましょう

発問に対して、即答を求めるのではなく、次のような指示で、文章表現に即して自分の考えを書くように指導し、自分の考えを書く習慣化を図りましょう。

- (指示の例) ○「自分の考えをノートに1行程度で書いてみよう。」
○「どうしてそう思うのか、理由となる文章表現に線を引いてみよう。」
○「文章表現を引用して、ノートに理由を書いてみよう。」

文章表現を根拠にして伝え合いましょう

自分の考えを書く習慣化が図られてきたら、その考えを互いに伝え合う中で、論理的に考えて説明する力を一層育てるようにしましょう。例えば、教師の発問に対して生徒が全員で考え、対立する意見を整理する過程で、生徒が本文の表現を根拠にして自分たちの考えを述べ合うことは、「読みを深める」授業として大変有効です。そうした授業の中では、「表現を根拠にして自分の考えをノート等を書く」という学習場面がたくさん用意されることになります。一例として、次のような学習指導過程は、「伝え合う学習」を実現するうえでも具体的な手だてとなります。

《文章表現を根拠にして伝え合う授業の指導過程例》

発問に対する考えをノートに短く書く。



- * (発問) メロスは何のために走ったのか。
* (考え) ・友情のため ・人の信実を王に証明するため。
・勇気ある人間だということを王にも自分にも証明するため。

考えの根拠となる文章表現に線を引く(ノートに写す)。



- * おまえらは、わしの心に勝ったのだ。信実とは、けっして空虚な妄想ではなかった。
* それだから走るのだ。信じられているから走るのだ。
* わたしは、なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。

グループ内で、表現を根拠にして考えを述べ合う。



全体で話し合う。発言内容の主な点をノートにメモする。



考えや根拠となる文章表現を整理し、ノートに自分の考えをまとめる。

2 「字数指定」に段階的に慣れさせましょう

字数指定の問題は、指定される字数が多いほど通過率が低いとは限りません。

例えば、次の問題は、前回（第1回）でも示したものです。本県の平均通過率(63.8%)は6割程度にとどまっているものの、国の平均通過率(59.0%)を4.8%上回っており、無解答率は4.3%下回っています。したがって、本県の生徒は、25字程度の字数指定の問題への対応力は比較的身に付いていると考えられます。

全国の平均通過率より上回った記述式の問題例

本県	通過率 (無解答率)	63.8% (20.3%)	全国	通過率 (無解答率)	59.0% (24.6%)	差	4.8% (4.3%)
----	---------------	------------------	----	---------------	------------------	---	----------------

* 領域・事項：「読むこと」

* 学習指導要領の内容：C（1）イ

* 出題のねらい：文章の展開をとらえて内容を理解する。

文章中に、(3)これまでの森林は、荒廃して放置されても、数十年を待てば森林として回復する道があった。とありますが、それは、日本のどういう特色によるものですか。「特色」という言葉につながる形で、二十五字以内で書きなさい。

										10											20
																				特色	

(正答例)「気候が温暖であり、多くの雨に恵まれているという(特色)」

(条件) 「気候が温暖である」という内容を書いている。

「多くの雨に恵まれている」という内容を書いている。

「特色」という言葉につながる形で書いている。

* 、 、 の条件を満たしているものを正答とする。 、 の条件を満たし、 の条件を満たしていないものは準正答とする。

字数指定の目安は、25字程度から始めましょう

指定された字数内で考えをまとめることは、学習訓練としてたいへん有効な手だてであると思われます。普段の授業においては、発問や学習課題の提示にあたって、字数指定が行われることはあまり多いとはいえませんが、発問等に対する自分の考えなどを、ノートやワークシート等を書く機会はかなりあると考えられます。

そこで、調査結果からも分かったように、生徒の対応力が比較的高い25字程度の字数指定を一つの目安として、「字数を指定して書く」学習の機会を設けるようにするとよいでしょう。内容によっては、10字程度や15字程度という指定も大いに取り入れ、やがては50字程度や100字程度にもチャレンジできるようにするとよいでしょう。

なお、字数指定にあたっては、教師自身が生徒の立場になって、事前を書いてみるのが大切です。その字数指定でよいかどうかを十分に吟味しておくことで、授業における指導を円滑に進めることができます。

100 字を超える字数指定は、生徒が慣れている課題を参考にしましょう

次に示すのは、「80 字以上、100 字以内」と、記述式の中で指定された字数が最も多い問題の例です。ただし、この問題の通過率は7割を超えています。それは、「賛成」か「反対」か、自分の立場を明確にして意見を述べるという問題で、中間・期末テスト等でもよく出される形式によるため、生徒に対応力があつたからだと考えられます。

定期テストなどで比較的慣れているタイプの記述式の問題例

本県	通過率 (無解答率)	74.0% (9.9%)	全国	通過率 (無解答率)	74.7% (11.3%)	差	-0.7% (1.4%)
----	---------------	-----------------	----	---------------	------------------	---	-----------------

* 領域・事項：「話すこと・聞くこと」

* 学習指導要領の内容：A（１）工

* 出題のねらい：相手の立場や考えを尊重し、目的や場面に応じて、聞き分けて話す。

小林さんは、アンケート調査を通して、言葉遣い^{つか}についての意見をもちました。あなたは、小林さんの意見に賛成ですか、反対ですか。自分の立場をはっきりさせた上で、その理由もあげて百字程度にまとめ、あなたの考えをクラスで発表するように書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

A 10x20 grid of squares. The grid is divided into two sections: a 10x10 section on the left and a 10x10 section on the right. The top row is labeled '10' and '20'. The bottom row is labeled '100'.

(正答) 次の条件のうち、 の条件を満たして、さらに の条件の二つ以上を満たしているものを正答とする。 の条件を満たして、さらに の条件のいずれかが一つだけを満たしているものは準正答とする。(正答、準正答の割合を合計したものが通過率。)

(条件) 小林さんの意見に「賛成」または「反対」の語を用いて、自分の立場をはっきりさせている。

の理由を述べ、自分の考えを述べている。(小林さんの意見にふれていること。)

内容にまとまりがある。

「です」「ます」を使う等、発表する口調に配慮している。

分量として、3行を超えている。

字数指定を段階的に行いましょう

上記のことから、学習課題の提示やテストでの出題において、100 字程度またはそれ以上の字数指定をする場合は、生徒が慣れている課題を参考に、その題材や出題の仕方を取り入れるようにするとよいと考えられます。

例えば、「意見を書こう」（Ａ社・２年生）の中に、「新聞の投書などで、疑問のある意見があったら、例にならって反論の文章を書いてみよう。」という学習課題があります。新聞の投書は、300 字から 400 字程度の長さのものがほとんどです。それに対して、まず生徒が 100 字程度で反論を試みる。慣れてきたら 200 字にチャレンジする。そうした学習を何回か行ったならば、300 字程度～400 字程度という条件を設定して記述する。このようにして、段階的な取組をしていくことは、大変有効であると考えられます。

教科書教材をコンパクトに、繰り返し使いましょう

教科書には「書くこと」の単元が年間で2単元程度しか設定されていません。そのため、多くの生徒は、まとまった字数(600字程度～800字程度)の作文を年に2回しか書いていないことになります。一つの単元に10時間前後の時数が配当されていることも少なくありませんが、一単元で一編の作文を書くだけでは、記述力が十分に身に付くとはいえないでしょう。

例えば、ある若い先生には、次のようなエピソードがあります。年間指導計画に「意見文を書こう」(B社・2年生)という単元が8時間配当であったので、その先生は、教科書教材に示された手順を参考にして、次のように授業を展開したのです。

- 第1時 題材集め……「題材メモカード」を一人につき10枚ずつ配り、できるだけ多く書く。書いた中から、最も意見を述べたいことを一つ選ぶ。
- 第2時 主張文……ワークシートに、選んだカードの題材について、意見を一文で書く。グループで意見を交流する。
- 第3～4時 根拠集め……ワークシートに、「意見を支える事実やできごと」を箇条書きにする。
- 第5時 反論の予想……ワークシートに、反対の意見を予想して書く。グループで意見を交流する。
- 第6時 記述……ワークシートに今まで書いてきたことをもとに、原稿用紙に意見文を書く。
- 第7時 推敲……読み直して、推敲する。
- 第8時 交流……書いたものをお互いに読み合い、意見を交流する。

この授業展開は、記述過程の一つ一つに丁寧な指導をしていくものです。しかし、その結果、生徒が書いた意見文は、8時間の授業でわずかに一編のみでした。

記述力そのものを高めるためには、何度も繰り返し書くという指導過程をとる必要があるのではないのでしょうか。そこで、次に示すような指導過程によって、「繰り返し書く」ように工夫してはどうでしょうか。

- 第1時 「意見文」の例を読む。意見文に対して、「賛成」あるいは「反対」の箇所に線を引き、グループ内で、「賛成」あるいは「反対」の意見を述べ合う。200字程度で、「賛成」あるいは「反対」の意見文を書く。(記述1)
- 第2時 第1時で書いた意見文を発表する(数名)。意見を書くときに、「まず主張を述べ、それを支える事実やできごとを述べる」、「表現を根拠にして述べる」などが大切であることを確認する。別の意見文例を読む。第1時と同様に学習を展開する。(記述2)
- 第3時 各自が新聞の投書などから題材を選び、意見文を書く。(記述3)
- 第4時 意見文をグループ内で回覧し、自分の意見を添えて書く。(記述4)

この例では、本来は8時間配当だった単元計画の内容を見直して、コンパクトに4時間配当にしたうえで、毎時に1回ずつ、意見文を書いていくように変更しています(記述1～記述4)。一定の字数や時間内で自分の考えをまとめることができるようにするには、このように記述の機会を繰り返していくことが効果的です。新たに生み出された4時間分は、「書くこと」の発展的な学習にあてることもできるでしょうし、同じ内容の単元を次の学期に用意することで、補充的な学習にあてることもできるでしょう。

いずれにしても、ゆるやかな計画で伸び伸びと書くという学習を体験することも大切ですが、その一方で、このように、教科書教材をコンパクトに繰り返し使用するという発想も大切にしたいものです。

3 字数指定以外の「条件」にも段階的に慣れさせましょう

次に、指定字数が「50 字以内」または「80 字以上、100 字以内」の問題のうち、平均通過率が 5 割に達しなかった問題を示します。

文末のまとめ方や、使用する語句に指定のある記述式の問題例

本県	通過率 (無解答率)	46.0% (23.3%)	全国	通過率 (無解答率)	49.8% (26.2%)	差	-3.8% (2.9%)
----	---------------	------------------	----	---------------	------------------	---	-----------------

* 領域・事項：「読むこと」

* 学習指導要領の内容：C（１）ア

* 出題のねらい：文脈の中における語句の内容を理解する。

文章中に、(1)同じような経緯 とありますが、どのような経緯ですか。「経緯」という言葉につながる形で、五十字以内で説明しなさい。

(正答) 次の、 、 、 の条件を満たしているものを正答とする。また、 、 、 の条件を満たし、 の条件を満たしていないものと、 、 の条件を満たし、 の条件を満たしていないものを準正答とする。

(条件) 「大森林の恵みにより発祥した文明」という内容をふまえて書いている。

「文明の繁栄が森林を荒廃させる」という内容をふまえて書いている。

「森林の荒廃により文明が荒廃する」という内容をふまえて書いている。

文末のまとめ方や、使用する語句に指定のある記述式の問題例

本県	通過率 (無解答率)	43.4% (33.0%)	全国	通過率 (無解答率)	43.7% (38.7%)	差	-0.3% (5.7%)
----	---------------	------------------	----	---------------	------------------	---	-----------------

* 領域・事項：「読むこと」

* 学習指導要領の内容：C（１）工

* 出題のねらい：読み取ったことについて自分の意見を持つ。

文章中に、(4)我々が森林から贈られた贈り物は、より豊かな形で後代に贈らなくてはならない。そのためには、これ以上の森林破壊は絶対に許してはならないと思う。とありますが、この筆者の意見について、あなたの考えたことを、「文明」「回復」という言葉を使って、八十字以上、百字以内で書きなさい。

The graph features a grid with 10 columns and 5 rows. The horizontal axis is labeled with '10' at the top center and '100' at the bottom right. The vertical axis is labeled with '20' at the top right, '80' in the middle right, and '100' at the bottom right. The grid lines are solid, while the axes are dashed.

(正答) 次の ①、② の条件をすべて満たしているもの。

(条件) 筆者の意見に対する、自分の考えを述べている。

「文明」と「回復」という二つの語を適切に使用している。

80 字以上 100 字以内で書いている。

複数の「条件」の組み合わせに慣れさせましょう

問題例 では、「『経緯』という言葉につながる形で」という語句指定と、「五十字以内で説明」という字数指定とが組み合わせられています。同じように、問題例 では、「『文明』『回復』という言葉を使って」という語句指定と、「八十字以上、百字以内で」という字数指定とが組み合わせられています。このように、複数の条件が組み合わせられた文章問題に対する対応力は、全国と同様に、本県の生徒においても、十分に身に付いているとはいえません。しかし、無解答率をみると、本県の生徒は全国に比べて、書こうとする意欲はやや高い傾向にあると考えられます。

そこで、字数指定以外の条件設定にも慣れるように、複数の条件を組み合わせたり、その難度を段階的に上げていったり、どのくらいの字数でまとめるとよいかなどを生徒自身にも考えさせたりなどして、学習課題やテスト問題に取り組ませることが望まれるのではないのでしょうか。次に、その具体策の例を示しますので、参考にしてください。

「使用する言葉」や字数を指定して

- ある段落や文章の範囲を特定して、「ここで筆者が述べていることを、〇〇と〇〇の２語を使って、できるだけ簡単にまとめてみよう。」などといった言い方で、生徒に取り組ませます。まずはこのように、「使用する言葉」だけを指定するなどして、記述の習慣化を図っていきます。
- その習慣化が図られてきたら、例えば、「この範囲で筆者が述べていることに対して、賛成か反対か立場を明確にして、自分の考えを述べてみよう。字数は〇〇字程度。その際、〇〇と〇〇の２語を必ず使うこと。」といったように、条件を組み合わせることで課題を示し、「自分の考え」も述べるようにします。

キーワードやキーセンテンスを考えさせる

- 文章の範囲を指定したうえで、「この範囲で筆者が述べていることをまとめるとしたら、どの言葉（文）が重要だろうか。」などといった問い方で、生徒に大切な言葉や文（キーワード、キーセンテンス）を探させます。その際、必ず理由を述べさせ、互いの理由を比べる学習の場面を設け、論理的に考え説明する習慣化を図ります。
- その習慣化が図られてきたら、例えば、「このキーワードを使って、この範囲の文章の要旨をまとめるには、字数はどれくらい必要だろうか。」などといった問い方で、「字数」を考えさせます。生徒が考えた字数はすべて受け入れ、実際に記述させます。まずは自分で文章量を推定しながら記述を進めることで、その過程で、どの言葉が必要で、どの言葉は省くべきなどを論理的に考える力が身に付くのです。なお、途中で、字数を訂正することを認める場面を設けるようにします。

どちらの場合でも、記述の前に、ペア学習などで話し合い、記述できそうな手応えを得させることが大切です。また、記述したものを生徒に板書させて比べたり、互いに読み合ったりすることを通して、論理的に考えて説明する力を身に付けさせるようにします。

文章表現の微細な点にこだわらせる

文学的文章の場合、文章表現の微細な点にこそ、人物の心情が託されていたり、行動の意味が隠されていたりすることが少なくありません。

そこで、表現の微細な点にこだわって読むことのおもしろさを生徒に伝えるために、教師自身がおもしろいと思った具体的な教材文の箇所を例示するなどして、分かりやすく説明するようにしたいものです。そのうえで、生徒自身にも、「私がおもしろいと思った文章表現」などについて述べさせ、指導の必要に応じて、字数指定や語句指定などの条件を示して記述させるようにしてはどうでしょうか。このような学習を重ねることにより、表現に即して主体的に読む態度を育てることにつながっていくと考えられます。また、生徒がそれぞれに選んだ文章表現をもとにして、学習課題やテスト問題を作成させてみるという手だても効果的です。様々な方法を用いて、自分から文章表現に取り組もう、味わおうとする態度を育てたいものです。

《教師の例示から文章表現に着目させる》

「読書紹介をしよう」(東京書籍・1年生)

これから書く「読書紹介カード」には、みなさんが選んだ「お薦めの本」の本中で印象的だった場面や文章表現を引用して書くようにしましょう。私(先生)が例の一つ示します。……「さんちき」の中には、とてもおもしろい会話文がたくさんありましたが、中でも印象的だったのは、「三吉、そこを放せ。動けへんやないか。」という親方の言葉です。「そこを放せ」の「そこ」って何のことでしょう。どの場面か覚えていますか。教科書を開いてみましょう。そう、その場面です。……この会話文の直後に、「知らぬ間に、手が親方の着物のそでをしっかりと握り締めていた。」とありますから、「そこを放せ」の「そこ」とは、「着物のそで」のことになるのでしたね。普通、指示内容は指示語の直前にあることが多いのですが、ここでは指示語の直後にあることにより、「そこ」って何のことだろうかと、読み手に想像させる効果がありますね。私も、一瞬、何だろうかとドキッとしながら読みましたが、次の瞬間、焦っている親方と、ぶるぶる怖がっている三吉の様子が目に浮かんでくるようでした。……では、みなさんも、「お薦めの本」について、印象的だった場面や文章表現を引用して、カードに書いてみましょう。今回は、300字のカードを用意しましたので、その範囲でまとめてください。

「トロッコ」(三省堂・1年生)

この作品には、良平の心情や行動の意味を表しているかのような情景描写がたくさんあります。それを探して紹介しましょう。まずは、例の一つ紹介します。……教科書の161ページを開いてください。良平が不安な気持ちを抱えており、どうしていいか分からない状況が描かれています。ここで良平は、「茶店の前には花の咲いた梅に、西日の光が消えかかっている。」という情景を見て、「『もう日が暮れる。』」と思いましたね。もう日が暮れる、……「そう考えると、ぼんやり腰掛けてもいられなかった。」という心情になったわけです。だから、「トロッコの車輪をけってみたり、一人では動かないのを承知しながらうんうんそれを押してみたり」することで、「気持ちをまぎらせていた」わけですね。「うんうん」という表現に、良平の気持ちがよく表れているように私(先生)は思いました。みなさんはどんなところに気づくでしょうか。……では、教科書の○ページから○ページの範囲をもう一度読み直し、良平の心情や行動の意味を表していると考えられる情景描写を探して、400字以内でまとめ、このあと紹介しましょう。なお、引用した文章表現の箇所には、必ずカギ括弧を付けてください。